

国立病院機構 新潟病院 外科

当院が外科を立ち上げて 6 年になりました。現状ではまだ若い人達に高度でよくプログラムされた外科研修を提供することはできません。しかしあなたがもしも当院へ来て下さったならば、外科診療を充実させようと我々と共に奮闘する中で、手応えのある日々を過ごされることでしょう。

当院は傷痍軍人療養所や結核療養所の時代を経て、神経難病や小児先天性疾患患者のための国立療養所として運営されてきました。平成 12 年に国立病院となり、地域住民への一般診療も手掛けるようになりました。外科は常勤医が一時期おりましたが、その後長く不在となっていました。

平成 22 年に私（外科学会・消化器外科学会専門医）が着任し外科診療を開始しました。24 年に内科医が外科を志して加わり計 2 名となりました。学閥はありません。日本外科学会専門医制度の修練関連施設です。

仕事は一般外科（乳腺を含む）・消化器科診療と、当院で療養されている難病患者の外科診療です。内視鏡等の術前検査から手術、化学療法、症例によっては緩和ケアまで、標準的な治療がきちんとできる外科を目指しています。腹腔鏡手術も積極的に取り入れており、昨年度は大腸切除術の半数以上を腹腔鏡下で行いました。手術実績の表で気管切開術や胃ろう造設術が多いのは、院内患者のニーズが反映されているためです。小さな手術でも体力の低下した患者さん達に麻酔の導入から覚醒まで細心の注意を払って臨んでいます。

週 1 回は地域の救急輪番を引き受けています。この他 NST 活動や褥瘡診療、緩和ケアを院内多職種と共にカンファレンスで議論を重ねながら行っています。

よくある地方の病院と思われるかもしれません。しかし本気で仕事をやっていけば毎日大変で、その中で知識や技術が少しづつ染みついていくものです。もしも興味を持たれたら、是非見学において下さい。当院での研修中には国立病院機構ネットワーク内の他施設での研修を含めることもできます。

昨年の 7 月には美しい新病棟がオープンしました。よりよい外科診療を目指して多忙な毎日を過ごしつつ、皆様をお待ちしています。

文責： 金谷 洋（外科医長、診療部長）